第1章 もっと使える便利な機能

■この章でおこなうこと

BroadStation の設定変更や、いろいろな使い方について説明しています。

1.1 通信環境を設定する

■ 2 台目以降のパソコンを増設します

2 台目以降のパソコンを増設するときは、以下の手順をおこないます。

1 パソコンに LAN ボードのドライバをインストールします。

2 パソコンと BroadStation を LAN ケーブルで接続します。

3 「パソコンの IP アドレスが正常に割り当てられているか確認したい」（P79）を参照して、パソコンの IP アドレスの設定を確認してください。

4 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［Internet Explorer］を選択します。

5 ［アドレス］欄に「http://www.airstation.com/」と入力します。
<Enter> キーを押します。

6 “airstation.com”が表示されます。

同様の手順で他のホームページのアドレスを入力すれば、指定したホームページが表示されます。

▶参照 ホームページが表示されない場合は、「第 2 章　困ったときは」の「パソコンの IP アドレスが正常に割り当てられているか確認したい」（P79）を参照してください。

以上で、2 台目以降のパソコンの増設は完了です。

■　他のパソコンと通信をする

BroadStation は 4 ポートスイッチングハブを内蔵しており、他のパソコンとのネットワーク環境を構築することができます。

設定方法の詳細は、Windows に添付のマニュアルまたはヘルプを参照してください。弊社では Windows の操作や仕様に関するご質問にはお答えできません。あらかじめご了承ください。

また、BroadStation ユーティリティ CD 内の電子マニュアル「TCP/IP の設定例と共有設定例」(「ネットワーク構築例」内に収録)にも設定例が記載されていますので、参考にしてください。

■ BroadStation の設定画面を表示する

1 「らくらく！セットアップシート」の「4-1　IP　設定ユーティリティを入れます」を参照して、設定用パソコンに IP 設定ユーティリティをインストールします。

2 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［MELCO INC］－［BroadStation］－［IP 設定ユーティリティ］を選択します。

3

［ブロードステーション検索］ボタン をクリックします。

4 BroadStation の検索が始まります。

5 BroadStation が表示されます。

6

検索された BroadStation を選択します。

［管理］－［ブロードステーション設定］を選択します。

7

WEB ブラウザが起動して、設定画面が表示されます。

設定画面が表示されないときは、「第 2 章　困ったときは」の「設定画面が表示されない」（P52）を参照して、ブラウザの設定を確認してください。

1.2 各種設定の変更と確認

■ 設定画面のパスワードを設定する

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2

［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

［管理］をクリックします。

4

「新パスワード」欄に新しいパスワードを入力します。

「パスワード確認」欄に再度パスワードを入力します。

［設定］をクリックします。

メモ　パスワードとして入力できるのは、半角英数字と "_"（アンダーバー）の組み合わせで、最大 8 文字までです。大文字小文字は別の文字として認識されます。

パスワードを忘れてしまった場合は、BroadStaion 背面の設定初期化スイッチを 3 秒以上押すと、出荷時のパスワード（未設定）に戻すことができます。ただし、パスワード以外の設定もすべて工場出荷時の設定に戻ります。

設定初期化スイッチについては、「5.1　各部の名称とはたらき」（P108）を参照してください。

■　Windows Messenger や MSN Messenger を使う（Universal Plug and Play）

Windows Messenger や MSN Messenger を使用する場合は、以下を参照してください。

■　UPnP（Universal Plug and Play）の対応について

BroadStation は UPnP（Universal Plug and Play）に対応しているため、UPnP に対応したアプリケーションを簡単に使うことができます。2003 年 1 月現在、UPnP に対応している Windows とアプリケーションは以下の通りです。

Windows

・WindowsXP

・WindowsMe

アプリケーション

・Windows Messenger Version 4.6 以降

・MSN Messenger Version 4.6 以降

メモ
- Windows2000/98/95/NT4.0 は 2003 年 1 月現在、UPnP に対応していません。これらの Windows で Messenger を使う場合、一部機能に制限があります。（次ページを参照）
- Messenger の最新版は、Microsoft のホームページ（http://messenger.microsoft.com/）からダウンロードできます。

■ 利用できる Messenger の機能

BroadStation の UPnP 機能を有効にすることにより、以下の機能を利用できます。

	WindowsXP	WindowsMe/2000/98/NT4.0
インスタントメッセージ（＊）	○	○
音声チャット	○	○
ビデオチャット	○	機能なし
リモートアシスタンス（＊）	○	機能なし
アプリケーションの共有	○	機能なし
ホワイトボード	○	機能なし

メモ
- UPnP 機能を無効にした場合は、上記の＊印の機能のみ利用できます。
- WindowsMe/2000/98/95/NT4.0 は 2003 年 1 月現在、UPnP に対応していません。
- Messenger をご使用になる前に Windows Update のすべての更新を適用することをおすすめします。
- Messenger の機能のうち、「ファイルまたは写真の送受信」、「電話をかける」には対応しておりません。（2003 年 1 月現在）

■ BroadStation の設定確認

Messenger を使用する前に、以下の方法で BroadStation の UPnP 機能が有効になっていることを確認します。

メモ BroadStation の UPnP 機能は、出荷時に有効になっています。

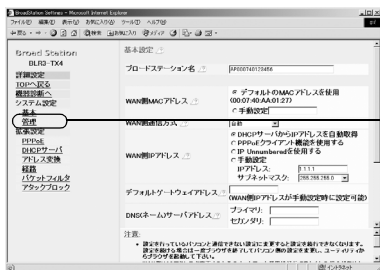
1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、設定画面を表示します。

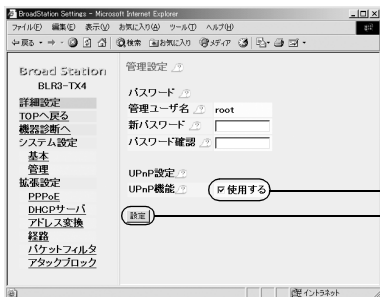
2

［詳細設定］をクリックします。

メモ ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1 クリック ［管理］をクリックします。

4

1 確認 ［使用する］がチェックされていることを確認します。
チェックされていない場合は、クリックしてチェックマークをつけてください。

2 クリック ［設定］をクリックします。

■ UPnP サービスのインストール

以下の手順で UPnP サービスをインストールします。手順は、WindowsXP と WindowsMe で異なります。

WindowsXP での設定

1 ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。

2

1 クリック ［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

3

1 クリック　［ネットワーク接続］をクリックします。

4

1 確認　「インターネットゲートウェイ」に「BLR3-TX4 上の WAN Connection」が表示されていることを確認します。

2 選択　［詳細設定］－［オプションネットワークコンポーネント］を選択します。

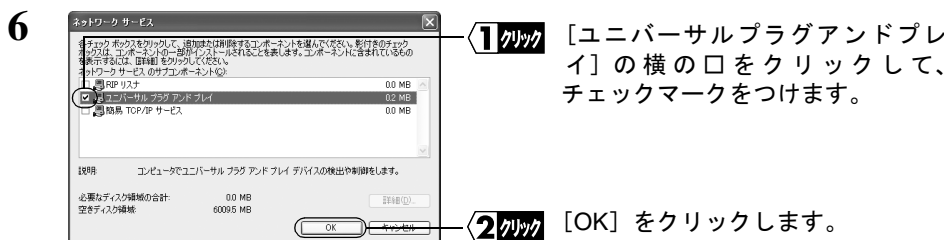
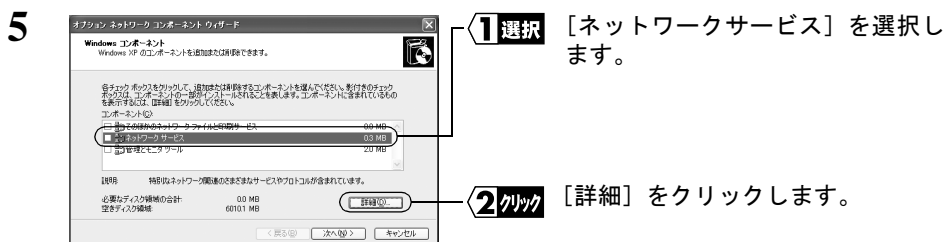
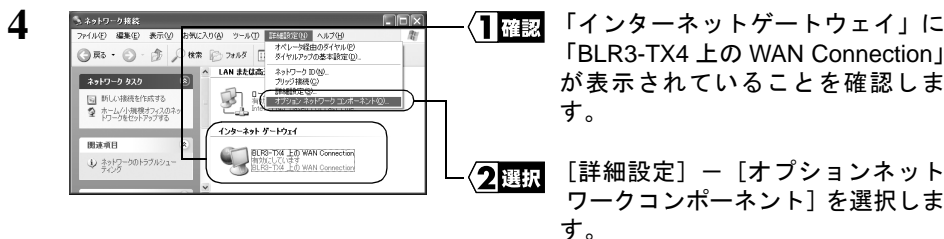
5

1 選択　［ネットワークサービス］を選択します。

2 クリック　［詳細］をクリックします。

6

1 クリック　［ユニバーサルプラグアンドプレイ］の横の口をクリックして、チェックマークをつけます。

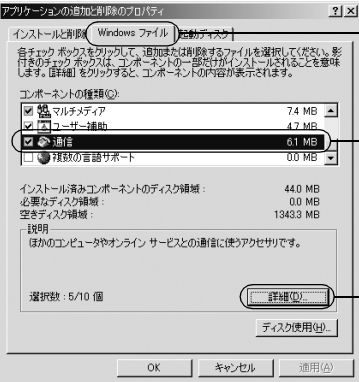
2 クリック　［OK］をクリックします。

7 手順 5 の画面に戻ったら、［次へ］をクリックします。

8 「ユニバーサルプラグアンドプレイ」がインストールされます。

9 ［スタート］－［マイコンピュータ］を選択します。

10 ［マイネットワーク］をクリックします。

11 「ローカルネットワーク」に「BUFFALO BLR3-TX4」が表示されていることを確認します。

以上で、UPnP サービスのインストールは完了です。

WindowsMe での設定

⚠注意
- Messenger を WindowsMe で使用する場合、DirectX のバージョンが 8.1 以降である必要があります。DirectX のバージョンが 8.1 よりも古い場合は、Windows Update（http://windowsupdate.microsoft.com/）からダウンロードしてインストールしてください。
- DirectX のバージョンは、［スタート］－［ファイル名を指定して実行］を選択 → 「dxdiag」と入力して［OK］をクリック の順で確認できます。

1 ［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］を選択します。

2 ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックします。

3

1 クリック ［Windows ファイル］をクリックします。

2 選択 ［通信］を選択します。

3 クリック ［詳細］をクリックします。

4

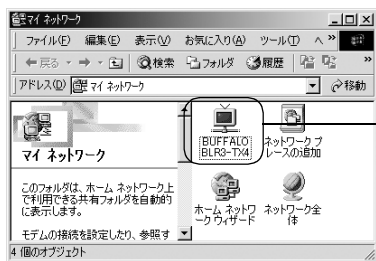
［ユニバーサルプラグアンドプレイ］の横の□をクリックし、チェックマークをつけます。

［OK］をクリックします。

5 手順 3 の画面に戻ったら、［OK］をクリックします。
「ユニバーサルプラグアンドプレイ」がインストールされます。

6 「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、［はい］をクリックします。

7 デスクトップの［マイネットワーク］をダブルクリックします。

8

「BUFFALO BLR3-TX4」が表示されていることを確認します。

以上で、UPnP サービスのインストールは完了です。

■ Messenger の使いかた

使いかたは、Messenger に付属のヘルプを参照してください。また、Microsoft のホームページ（http://messenger.microsoft.com/）にもヘルプがありますので、そちらもあわせてお読みください。

■ ネットワークゲームやストリーム再生型アプリケーションを利用する / サーバを公開する

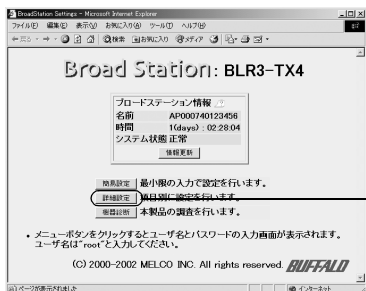
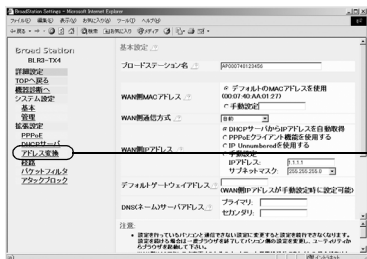
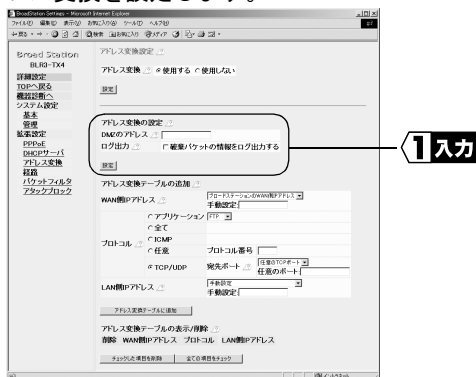
各種 NAT（アドレス変換）機能の設定をおこなうには、以下の手順をおこないます。

メモ　静的 IP マスカレード機能の動作確認済みアプリケーションは、AirStation/BroadStation コミュニティサイト (http://www.airstation.com/) をご覧ください。

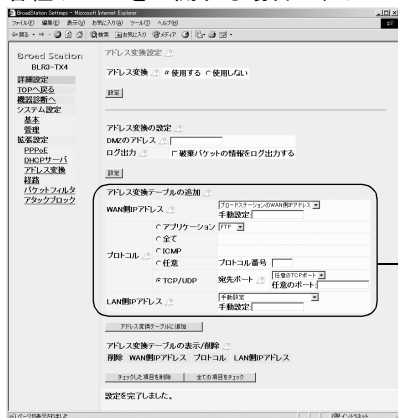
1　「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2　［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1 クリック　［アドレス変換］をクリックします。

4 ネットワークゲームやストリーム再生型アプリケーションを利用する場合は、アドレス変換を設定します。

- DMZ のアドレス
  インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送される LAN 上の IP アドレス（DMZ アドレス）を設定します。ここで設定されたアドレスで、ネットワークゲームや再生型アプリケーションが楽しめます。

5 ［設定］をクリックします。
画面の下に「設定を完了しました」と表示され、［アドレス変換設定］画面に戻ります。

6 各種サーバを公開する場合は、アドレス変換テーブルを追加します。

- **WAN 側 IP アドレス**
  公開する各種サーバの固定グローバル IP アドレスを設定します。このアドレスはプロバイダから指定されたものです。［ブロードステーションの WAN 側 IP アドレス］を選択するか、または「手動設定」で IP アドレスを入力します。プロバイダから複数の固定グローバル IP アドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で BroadStation の WAN 側 IP アドレスに設定してあるアドレス以外のグローバル IP アドレスを手動で設定することが可能です。
- **プロトコル**
  アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。［任意］を選択したときは、プロトコル番号を入力します。［TCP/UDP］を選択したときは、ポートを設定します。
- **LAN 側 IP アドレス**
  インターネットからのアクセスの宛先となるプライベート IP アドレスを設定します。

メモ　アドレス変換テーブルの設定例

WWW（HTTP）サーバを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意の LAN 側の WWW サーバ IP アドレスに転送できます。

- WAN 側 IP アドレス
  ［ブロードステーションの WAN 側 IP アドレス］を選択します。
- プロトコル
  「アプリケーション」を選択して、「HTTP」を選択します。
- LAN 側 IP アドレス
  ［手動設定］を選択し、WWW サーバ IP アドレスを入力します。
  例 :192.168.0.2

⚠注意　各種サーバの公開には、固定グローバル IP アドレスの取得が必要となります。ご注意ください。

7 ［アドレス変換テーブルに追加］をクリックします。

「設定を完了しました」と表示されたら、アドレス変換の設定は終了です。

■　NetMeeting を使う

NetMeeting を使用する場合は、次の設定をしてください。

メモ
- 通話を開始するタイミングによっては、まれに映像や音声の通信ができない場合があります。この場合は一旦通信を終了したのち、再度通話をおこなってみてください。
- WAN 側のパソコンと通信できるのは、アドレス変換テーブルに IP アドレスを設定した、任意の LAN 側パソコン 1 台です。LAN 側パソコン 2 台以上から同時に通信することはできません。
- ご利用になる通信環境や、プロバイダ等によっては NetMeeting による映像・音声通信がご利用いただけない場合もございます。
- プロバイダから提供される IP アドレスがプライベート IP アドレスである場合は、WAN 側のパソコンと通信できません。

■　対応する NetMeeting

・Microsoft Windows NetMeeting Version 3.01 以降

メモ
- NetMeeting の最新版は Microsoft のホームページ（http://www.microsoft.com/japan/windows/netmeeting/）からダウンロードできます。NetMeeting の使い方や操作方法については、NetMeeting のヘルプ等を参照ください。
- Windows XP で NetMeeting を起動するには、［スタート］－［ファイル名を指定して実行］で "conf" と入力して、<Enter> キーを押します。
  この手順で起動しない場合には、パソコンメーカーまたは Microsoft にお問い合わせください。

■　設定手順

NetMeeting を使う前に、以下の 2 点の作業が必要です。

- BroadStation のアドレス変換テーブルの登録
- 自分の WAN 側 IP アドレスの相手先への連絡

BroadStation のアドレス変換テーブルの登録

「アドレス変換テーブル」に以下の登録が必要です。

- TCP ポート：1720 ⇔ LAN 側パソコンの IP アドレス
- TCP ポート：1503 ⇔ LAN 側パソコンの IP アドレス

以下の手順でアドレス変換テーブルの登録をおこなってください。

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2 ［詳細設定］－［アドレス変換］を選択します。

3 ［アドレス変換テーブルの追加］の、［プロトコル］欄で「TCP/UDP」を選択し、［任意の TCP ポート］を選択して、［任意のポート］欄に "1720" を指定します。
［LAN 側 IP アドレス］に「手動設定」を選択し［手動設定］欄に NetMeeting をおこなう LAN 側パソコンの IP アドレスを指定します。（LAN 側パソコンの IP アドレスは、下記のメモ参照）

4 ［アドレス変換テーブルに追加］をクリックします。
画面の下に「設定を完了しました」と表示された後、「アドレス変換設定」画面に戻ります。

5 ［アドレス変換テーブルの追加］の、［プロトコル］欄で "TCP/UDP" を選択し、［任意の TCP ポート］を選択して、［任意のポート］欄に "1503" を指定します。
［LAN 側 IP アドレス］に「手動設定」を選択し［手動設定］欄に NetMeeting をおこなう LAN 側パソコンの IP アドレスを指定します。（LAN 側パソコンの IP アドレスは、下記のメモ参照）

6 ［アドレス変換テーブルに追加］をクリックします。

メモ LAN 側パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認できます。
1 NetMeeting を起動します。
2 ［ヘルプ (H)］－［バージョン情報 (A)］を選択します。
［Windows NetMeeting のバージョン情報］に IP アドレスが表示されます。
※ NetMeeting に使用する LAN 側パソコンの IP アドレスを固定しておくことを推奨いたします。手順等についてはマニュアル等を参照ください。

メモ プロバイダから固定の IP アドレス割り当てられている場合を除き、IP アドレスは常に同じであるとは限りません。NetMeeting で通話できなくなったときは、BroadStation の WAN 側 IP アドレスおよび相手先の IP アドレスを再確認してください。

BroadStation の WAN 側 IP アドレスと相手先 IP アドレスの確認

NetMeeting を使用するには、通信相手の IP アドレスをあらかじめ知っておく必要があります。

BroadStation の WAN 側の IP アドレスを次の手順で確認して、相手先に連絡してください。また、相手先の IP アドレスも連絡してもらうようにしてください。

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2 ［機器診断］を選択します。
［本体情報］に［WAN 側 IP アドレス］が表示されます。この IP アドレスを相手に連絡してください。

■ 通話のしかた

《自分（LAN 側パソコン）から相手先に通話を発信する場合》

アドレスバーに相手先の IP アドレスを入力し、［通話する］をクリックします。

メモ
- 相手先の IP アドレスは、メールやインスタント・メッセンジャーなどを利用して、連絡してもらってください。
- Microsoft インターネット ディレクトリ には、現在のところ対応しておりません。

《相手先（WAN 側）からの通話を受信する場合》

NetMeeting を起動しておきます。

■ NTT フレッツ・スクウェアに接続する（PPPoE マルチセッション機能）

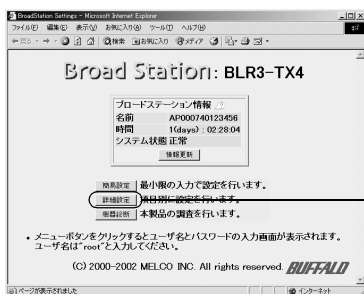
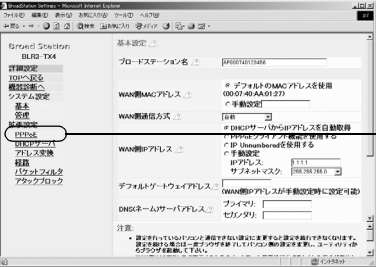
BroadStation は、PPPoE マルチセッションに対応しています。PPPoE マルチセッション機能を使用することで、1 つの回線契約でプロバイダとフレッツ・スクウェアに同時に接続できます。また、2 つ以上のプロバイダに同時に接続することも可能です。

ここでは例として、PPPoE マルチセッション機能を使ってプロバイダとフレッツ・スクウェアに同時に接続する設定を説明します。

メモ
- PPPoE マルチセッション機能を使用するには、PPP 接続セッション数が 2 つ以上ある回線が必要です。詳しくは、ご契約の NTT またはプロバイダにお問い合わせください。
- NTT のフレッツサービスにおけるセッション数についての詳細は、以下のホームページを参照してください。（2003 年 1 月現在）

NTT 東日本： http://www.ntt-east.co.jp/release/0209/020924a.html
NTT 西日本： http://www.ntt-west.co.jp/news/0209/020924.html

■ 接続先の設定

フレッツ・スクウェアを利用するためには、インターネットの接続先とは別の接続先を設定する必要があります。以下の手順で設定してください。

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、設定画面を表示します。

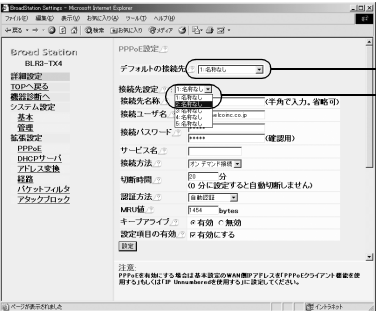
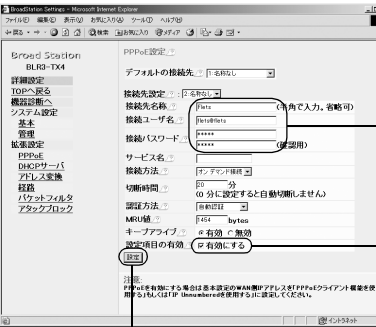
2

［詳細設定］をクリックします。

メモ ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1 クリック ［PPPoE］をクリックします。

4

1 確認 「デフォルトの接続先」欄が［1: 名称なし］になっていることを確認します。

2 選択 「接続先名称」に「2: 名称なし」を選択します。
（選択すると、手順 5 の画面に変わります。）

5

1 入力 以下のように入力します。

■ NTT 東日本の場合

接続先名称　　　：Flets
接続ユーザ名　　：guest@flets
接続パスワード　：guest
（確認用にも同じパスワードを入力してください）

■ NTT 西日本の場合

接続先名称　　　：Flets
接続ユーザ名　　：flets@flets
接続パスワード　：flets
（確認用にも同じパスワードを入力してください）

2 クリック 「有効にする」にチェックマークを入れます。

3 クリック ［設定］をクリックします。

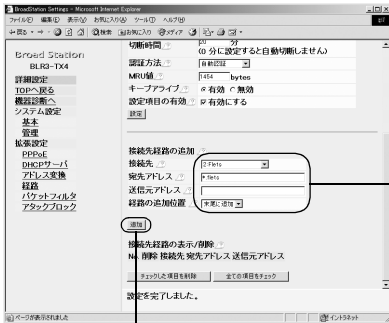
以上で接続先の設定は完了です。

■　接続ルールの設定

接続先の設定が完了したら、接続時のルールを設定します。

フレッツ・スクウェアの場合、「www.flets」にアクセスするため、

「.flets」にアクセスする際は、「接続先の設定」（P25）で作成した「2 : Flets」を利用するというルールを追加します。

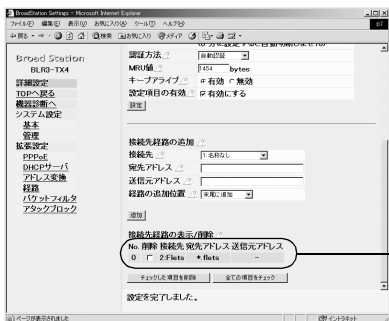
1

1 入力　以下のように設定します。

接続先	: 2:Flets
宛先アドレス	: ＊ .flets
送信元アドレス	:（空欄）
経路の追加位置	:「末尾に追加」

注意　パソコンのIPアドレスを手動で設定している場合、パソコン側のDNSアドレス設定欄にBroadStation の LAN 側の IP アドレスを入力してください。

メモ　宛先アドレスの「＊」は「＊」の位置にどのような文字が入っても問題ないことを示します。

2 クリック　［追加］をクリックします。

2

1 確認　「接続先経路の表示 / 削除」欄に追加したルールが表示されていることを確認します。

以上で接続ルールの設定は完了です。

■ フレッツ・スクウェアへの接続

接続ルールの設定が完了したら、フレッツ・スクウェアに接続します。

1 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［Internet Exploler］を選択します。

2 「アドレス」欄に「www.flets」と入力し、＜ Enter ＞キーを押します。

3 “フレッツ・スクウェア”が表示されます。

以上でフレッツ・スクウェアへの接続は完了です。

■ 2 つ以上のプロバイダに同時に接続する（PPPoE マルチセッション機能）

ここでは、PPPoE マルチセッション機能を使って、2 つ以上のプロバイダに同時に接続する場合の設定例を説明します。

⚠注意 UPnP 機能を使用するパソコンでは、デフォルトの接続先（P29 の手順 4 参照）を使用してください。BroadStation の UPnP 機能はデフォルトの接続先にのみ有効です。

メモ
- PPPoE マルチセッション機能を使用するには、PPP 接続セッション数が 2 つ以上ある回線が必要です。詳しくは、ご契約の NTT またはプロバイダにお問い合わせください。
- NTT のフレッツサービスにおけるセッション数についての詳細は、以下のホームページを参照してください。（2003 年 1 月現在）

NTT 東日本： http://www.ntt-east.co.jp/release/0209/020924a.html
NTT 西日本： http://www.ntt-west.co.jp/news/0209/020924.html

■ 接続先の設定

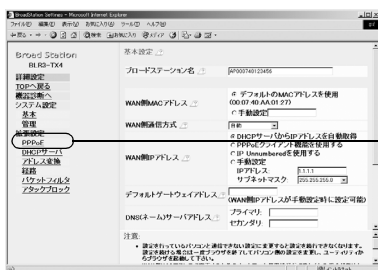
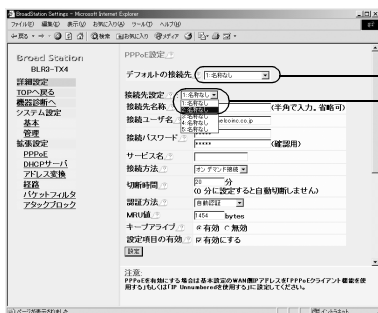
現在の接続先とは別の接続先を新しく登録します。以下の手順で設定してください。

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、設定画面を表示します。

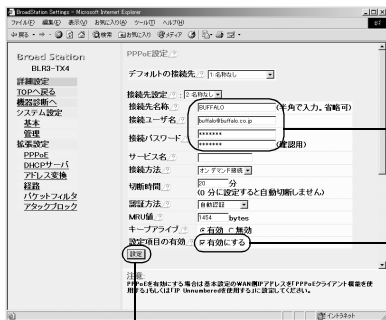
2 1 クリック ［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3 1 クリック ［PPPoE］をクリックします。

4

1 確認 「デフォルトの接続先」欄が［1: 名称なし］になっていることを確認します。

メモ　DNS アドレスの設定が必要な接続先を「デフォルトの接続先」にしてください。BroadStation では、「デフォルトの接続先」のみ DNS アドレスを手動設定できます。

2 選択 「接続先名称」に「2: 名称なし」を選択します。
（選択すると、手順 5 の画面に変わります。）

5

1 入力　プロバイダからの指示に従って、「接続先名称」、「接続ユーザ名」、「接続パスワード」を入力します。

メモ　接続先名称は、プロバイダの名称などの分かりやすい名称を半角英数字で入力してください。

2 クリック　「有効にする」にチェックマークを入れます。

3 クリック　［設定］をクリックします。

以上で接続先の設定は完了です。

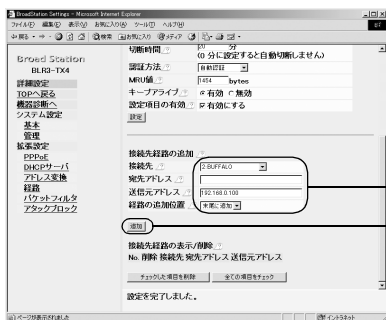
メモ　同じ手順で、5 つまで接続先を登録することができます。

■　接続ルールの設定

接続先の設定が完了したら、接続時のルールを設定します。ここでは例として、

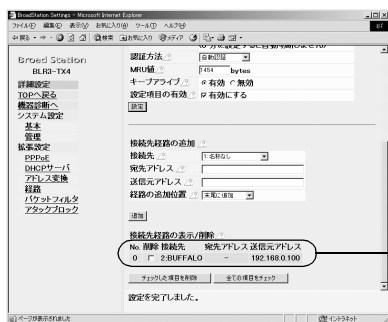
<u>IP アドレスが「192.168.0.100」のパソコンでは、「接続先の設定」（P29）で作成した接続先（2：BUFFALO）を利用する</u>

というルールを追加します。

1

1 入力　以下のように設定します。

接続先	: 2:BUFFALO
宛先アドレス	:（空欄）
送信元アドレス	: 192.168.0.100
経路の追加位置	:「末尾に追加」

2 クリック　［追加］をクリックします。

2

「接続先経路の表示 / 削除」欄に追加したルールが表示されていることを確認します。

以上で接続ルールの設定は完了です。

これで IP アドレスが「192.168.0.100」のパソコンは、新しく作成した接続先を使用してインターネット接続できるようになります。

■ B フレッツ、フレッツ ADSL で固定 IP サービスを利用する

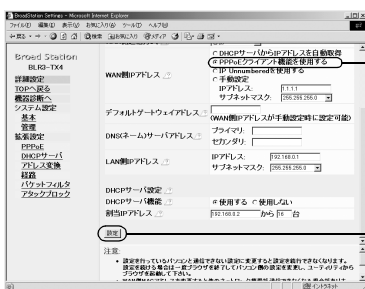
NTT の B フレッツやフレッツ ADSL を使って各プロバイダが提供している固定 IP サービスを利用する場合は、以下のように設定します。

■ 固定 IP アドレスが１つの場合

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、設定画面を表示します。

2 1 クリック ［詳細設定］をクリックします。

メモ ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3 1 選択 ［PPPoE クライアント機能を使用する］を選択します。

注意 固定 IP アドレスは、PPPoE 接続のたびに割り当てられますので、「手動設定」をする必要はありません。

2 クリック ［設定］をクリックします。

以上で設定は完了です。

■ 固定 IP アドレスが複数（８個、１６個など）の場合

次の「IP Unnumbered の設定をおこなう」（P33）を参照して設定してください。

■　IP Unnumbered の設定をおこなう

BroadStation は、IP Unnumbered に対応しています。IP Unnumbered を使用することで、プロバイダから配布された複数のグローバルIP アドレスをBroadStationに接続した各パソコンで使用できます。

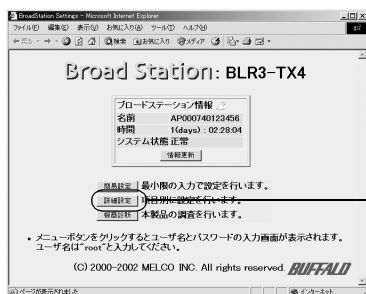
ここでは例として、以下の場合の設定例を説明します。

例：プロバイダから「10.10.10.8（サブネットマスク 255.255.255.248）」（固定アドレス 8 個）という IP アドレスが割り当てられた場合。

WAN 側アドレス（自動設定）...................10.10.10.8（ネットワークアドレス）
LAN 側アドレス（手動設定）....................10.10.10.9（ゲートウェイ）
1 台目のパソコン（手動設定）.................10.10.10.10（グローバル IP アドレス）
・
・
5 台目のパソコン（手動設定）.................10.10.10.14（グローバル IP アドレス）
ブロードキャストアドレス ....10.10.10.15（ブロードキャストアドレス）
サブネットマスク 255.255.255.248

メモ　プロバイダから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定を行ってください。

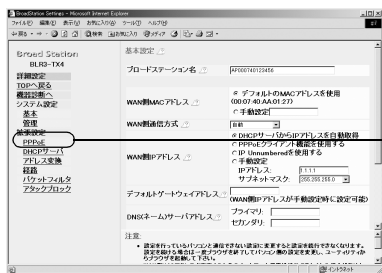
■　BroadStation の設定

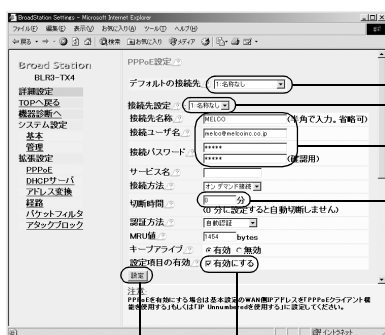
1　「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、設定画面を表示します。

2

［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1 クリック ［PPPoE］をクリックします。

4

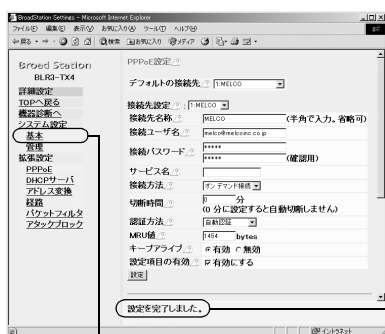
1 確認 「デフォルトの接続先」欄と「接続先設定」欄が［1 : 名称なし］になっていることを確認します。

2 入力 プロバイダからの指示に従って、「接続ユーザ名」、「接続パスワード」を入力します。
（接続名称は、任意の名称を入力できます。）

3 入力 「切断時間」欄に「0」を入力します。

4 クリック 「有効にする」をクリックして、チェックマークをつけます。

5 クリック ［設定］をクリックします。

5

1 確認 「設定を完了しました」と表示されることを確認します。

2 クリック ［基本］をクリックします。

6

1 選択　［IP Unnumbered を使用する］を選択します。

2 入力　プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスとサブネットマスクを入力します。

3 選択　「DHCP サーバ機能」に「使用しない」を選択します。

4 クリック　［設定］をクリックします。

7

1 クリック　［設定］をクリックします。

以上で BroadStation の設定は完了です。次にパソコン側の TCP/IP を設定します。

メモ　次の説明では、Windows2000 画面で説明します。TCP/IP の設定画面については、電子マニュアル「TCP/IP の設定例と共有設定例」（「ネットワーク構築例」内に収録）を参照してください。

■ パソコン側の設定

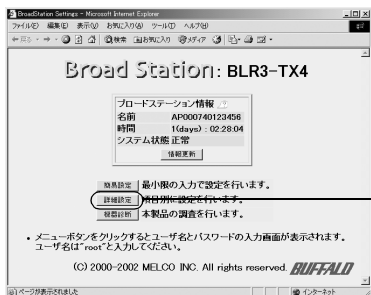
1

2 すべて設定できたら［OK］をクリックします。
他のパソコンも同様に設定してください。

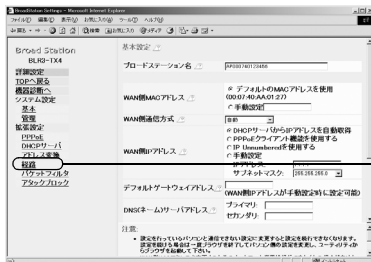
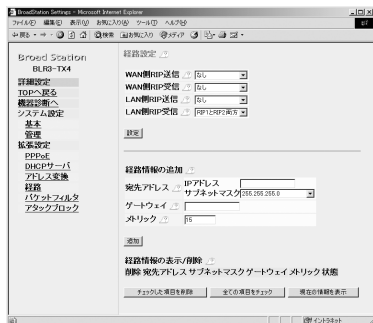
以上で設定はすべて完了です。

■ ルーティング機能の設定をおこなう

以下の設定で、各種ルーティング機能の設定ができます。

1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2 ［詳細設定］をクリックします。

メモ ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3 ［経路］をクリックします。

4 この画面で各種ルーティング機能の設定が可能です。各機能については、次ページを参照してください。

- RIP 送受信

  RIP は、ルータ間で自動的にルーティングテーブル情報を交換するプロトコルです。WAN 側 RIP 送信は、IP マスカレード使用時には無効となります。RIP を誤って設定すると、多数のルータが通信できなくなるなど、多大な影響を及ぼしますので、設定には充分ご注意ください。

- 経路情報の追加

  ルーティングテーブルを手動で追加することができます。

■ パケットフィルタの設定例

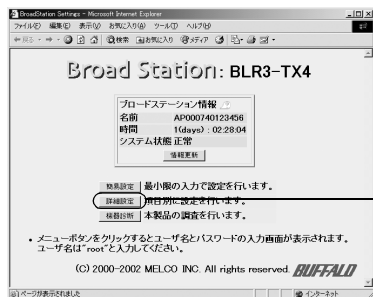
パケットフィルタの設定で、手動でフィルタを追加することができます。

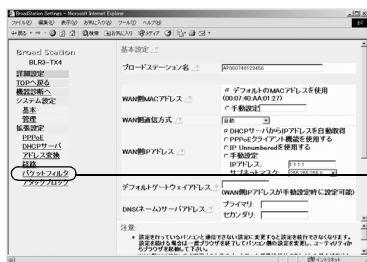
設定手順は以下の通りです。

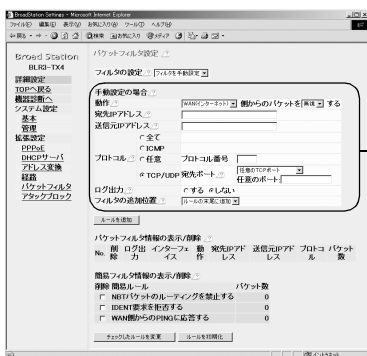
1 「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2

1 クリック

［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1 クリック 「パケットフィルタ」をクリックします。

4

1 入力 ［フィルタを手動設定］を選択する場合は、以下の項目も入力します。

動作	：WAN 側または LAN 側からのパケットをどうするかを設定します。
宛先 IP アドレス	：「動作」で設定した内容の対象になる宛先 IP アドレスを入力します。
送信元 IP アドレス	：「動作」で設定した内容の対象になる送信元 IP アドレスを入力します。

メモ 宛先／送信元 IP アドレスには、ネットワークアドレスを指定することもできます。
例 : 192.168.0.0/24

プロトコル　：制御対象となるプロトコルを指定します。

全て：　IP 上の全てのプロトコルを指定します。

ICMP：　ネットワーク診断用プロトコルです。

任意：　プロトコル番号を入力して、プロトコルを指定します。指定範囲は 0 ～ 255 です。

TCP/UDP：WEB アクセス、メール送受信などネットワークアプリケーションで主に使用されるプロトコルです。

宛先ポート　：通信パケットを通さない送信先ポートを入力します。「任意の TCP ポート」および「任意の UDP ポート」を選択した場合は、「任意のポート」欄にポート番号を入力してください。

メモ　連続したポートを指定することもできます。
例：2000-3000

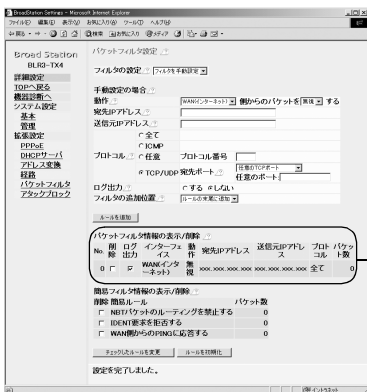
ログ出力　：パケットを検出したときにログへ出力するかどうか設定します。

フィルタの追加位置：作成するルールをどこに追加するか指定します。

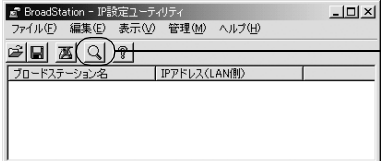
メモ　ルールは、No. の小さい順から評価され、該当するルールが合った時点で「動作」をおこないます。それ以降のルールはチェックされなません。

5　画面の下に「設定を完了しました」と表示された後、「パケットフィルタ設定」画面に戻ります。

6

1 確認　追加したパケットフィルタが表示されます。

以上で設定完了です。

■　アタックブロック（不正アクセス検出・防御）機能

BroadStation に搭載しているアタックブロック機能で、インターネットを使った他者からの不正アクセス（アタック）を検出・防御することができます。

不正アクセスの検出・防御結果は、以下の３つの方法で確認できます。

- **BroadStation のアクセスログを確認する**
  ⇒下記の手順１～７までを行なってください。
- **パソコンにポップアップ表示させる**
  ⇒下記の手順すべてを行なってください。
- **電子メールで通知させるようにする**
  ⇒ BroadStation 設定画面から［詳細設定］－［アタックブロック］画面で設定してください。

■　不正アクセスを防御した結果をポップアップ表示するには

メモ
- ポップアップ表示するには「IP 設定ユーティリティ」が必要です。インストールしていない場合は、別紙「らくらく！セットアップシート」を参照してインストールしておいてください。
- あらかじめ、別紙「らくらく！セットアップシート」を参照して、BroadStation の設定を完了しておいてください。

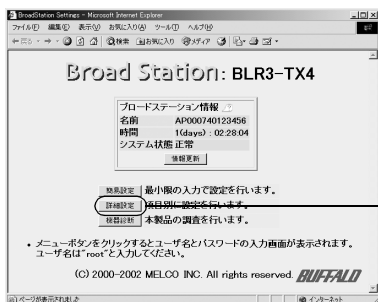
1　［スタート］－［（すべての）プログラム］－［MELCO INC］－［Broad Station］－［IP 設定ユーティリティ］を選択します。

2

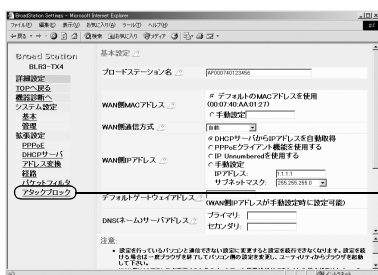
「ブロードステーション検索」ボタン（　）をクリックします。

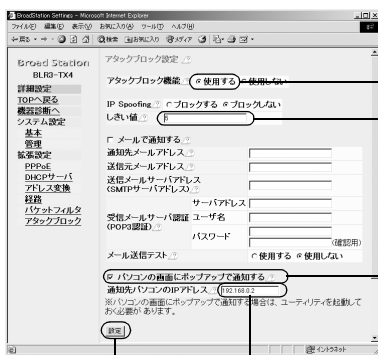
3

表示された BroadStation をダブルクリックします。

4

1 クリック ［詳細設定］をクリックします。

メモ ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

5

1 クリック 「アタックブロック」をクリックします。

6

1 選択 「使用する」を選択します。

2 入力 「しきい値」を設定します。

メモ 値を小さくするほど不正アクセスに対して敏感になりますが、誤報の可能性も大きくなります。特に設定する必要がない場合は、初期設定（5）のままご使用ください。

3 クリック 「パソコンの画面にポップアップで通知する」にチェックマークを入れます。

4 入力 通知先のパソコンの IP アドレスを入力します。

5 クリック ［設定］をクリックします。

7 「設定を完了しました」と表示され、数秒後に設定画面に戻ります。

8 通知先に設定したパソコンに IP 設定ユーティリティをインストールします。

メモ IP 設定ユーティリティのインストール方法は、「らくらく！セットアップシート」を参照してください。

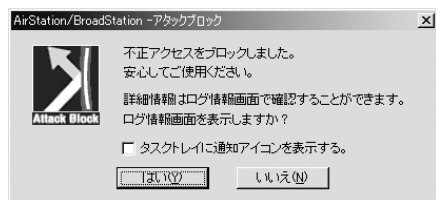
9 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［MELCO INC］－［Broad Station］－［IP 設定ユーティリティ］を選択します。

メモ ポップアップする機能を有効にするため、インストール後に１度だけ IP 設定ユーティリティを起動する必要があります。
（以降は IP 設定ユーティリティを終了していても、ポップアップ表示されます）

以上で設定は完了です。

不正アクセスされると...

アタックブロック機能で検出・防御して、パソコンにポップアップ表示されます。

メモ
- ポップアップや電子メールにより検出・通知された不正アクセスについては、すでに防御されていますので、特に設定などを変更する必要はありません。
- 詳細情報は、ログ情報画面で確認できます。

■　DHCP サーバ（IP アドレス自動割当）機能

以下の場合の設定例を説明します。

DHCP で割り当てるアドレス

　192.168.0.5 ～ 192.168.0.24

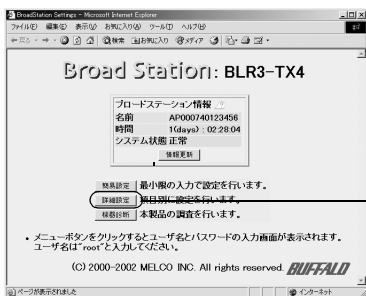
上記の IP アドレスのうち除外するアドレス

　192.168.0.17

⚠注意　DHCP サーバ機能で割り当てる IP アドレスは、BroadStation の IP アドレスと同じネットワークアドレスとなるように設定してください。

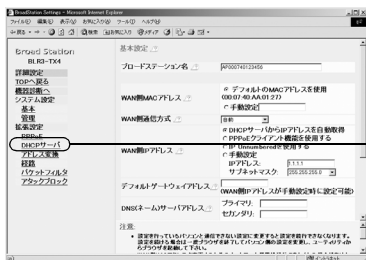
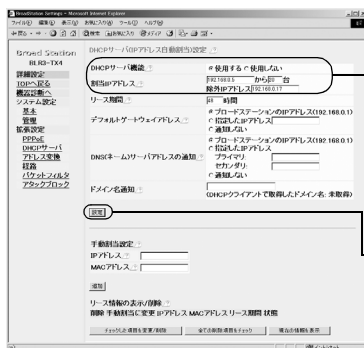
1　「BroadStation の設定画面を表示する」（P8）を参照して、BroadStation の設定画面を表示します。

2

1クリック　［詳細設定］をクリックします。

メモ　ネットワークパスワードの入力画面が表示されたときは、ユーザー名に「root」と入力して［OK］をクリックしてください。

3

1クリック　「DHCP サーバ」をクリックします。

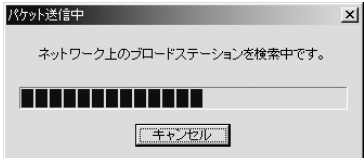
4

以下の設定を入力します。
DHCP サーバ機能：
　「使用する」
割当 IP アドレス：
　「192.168.0.5」から「20」台
除外 IP アドレス：
　「192.168.0.17」

［設定］をクリックします。

メモ　BroadStation を使用してインターネットに接続する場合は、以下の項目も設定します。
デフォルトゲートウェイアドレス：
「ブロードステーションの IP アドレス」を選択します。
DNS（ネーム）サーバアドレスの通知：
「ブロードステーションの IP アドレス」を選択します。
プライマリ / セカンダリ DNS サーバ（DNS リレー設定内）:
プロバイダから DNS アドレスを指定されている場合、そのアドレスを入力します。

以上で設定完了です。

■　IP 設定ユーティリティをアンインストールする

以下の手順で IP 設定ユーティリティをアンインストールできます。

1　［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］を選択します。
WindowsXP の場合は、［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。

2　「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
WindowsXP の場合は、「プログラムの追加と削除」をクリックします。

3　「IP 設定ユーティリティ」を選択して、［追加と削除］（WindowsXP の場合は、［変更と削除］）をクリックします。

4　「削除」を選択して、［次へ］をクリックします。

5　「選択したアプリケーション、およびすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」と表示されるので、［OK］をクリックします。

6　「メンテナンスの完了」画面が表示されたら、［完了］をクリックします。

■　BroadStation の IP アドレスを確認する

以下の手順で BroadStation の IP アドレスを確認できます。

1　「らくらく！セットアップシート」の「4-1　IP　設定ユーティリティを入れます」を参照して、設定用パソコンに IP 設定ユーティリティをインストールします。

2　［スタート］－［（すべての）プログラム］－［MELCO INC］－［BroadStation］－［IP 設定ユーティリティ］を選択します。

3

［ブロードステーション検索］ボタンをクリックします。

4

BroadStation の検索が始まります。

5

「IP アドレス」欄に、BroadStation の IP アドレスが表示されます。

■　BroadStation の設定を出荷時設定に戻す

1　BroadStation が動作していることを確認します。

2　BroadStation の背面にある設定初期化スイッチを 3 秒以上押し続け、DIAG ランプが点灯したらスイッチを離します。DIAG ランプが消灯すると、出荷時設定にリセットされます。

メモ　設定初期化スイッチについては、「5.1　各部の名称とはたらき」（P108）を参照してください。

1.3 自己診断機能

BroadStation は、電源 ON 時または再起動時に、自己診断する機能を持っています。

異常が発生したときは、DIAG ランプの点滅回数で、エラー内容を特定できます。DIAG ランプの点滅は、電源 OFF 時または再起動時まで、繰り返しおこなわれます。

⚠注意 DIAG ランプは、データの書き込み中も点灯します。データの書き込み中は、絶対に BroadStation の電源を切らないでください。

※ データの書き込みは、設定時とファームウェア更新時におこなわれます。

■ DIAG ランプ点滅時のエラー内容

点滅回数	状態	説明
点灯したまま	RAM チェック異常	内部メモリの読み書きができません。
2 回	ROM チェック異常	フラッシュ ROM の読み書きができません。
3 回	LAN コントローラ異常	WAN/LAN コントローラが故障しています。
9 回	上記以外の異常	

上記のエラーが表示されたときは、一度、AC アダプタをコンセントから抜き差ししてください。抜き差ししてもエラーが表示されるときは、弊社修理センター宛に BroadStation を直接お送りください。